

北方佛教
即ち大乘

ふ、即ち所謂小乗の一派とす。北方は印度の北部より西藏に入り、是を中心として蒙古の諸部落に傳播し、東方は支那、朝鮮、日本に來れり。此の北及東に傳播せしを北方佛教即ち大乘派と稱す。南方に小乗傳はり、北方に大乘弘まりたるは、蓋し西藏、支那、日本、蒙古の如きは、其の氣候、風土、人種の關係よりして、小乗の道甚だ行はれ難きもの有るに因らずんばあらず。

密教の教
理

識者の説に依れば、龍樹の唱道したる密教は、大乘佛教中、最も深遠なる教理を包含し、深く神秘幽玄の域に馳せたるものにして、到底顯教の徒の窺知し難き所あり。佛教全體の究竟する所は實に密教に在りと云ふ。

龍樹の大乘教は、後ち無着と世親とに因りて、認識的哲學派と、冥想的宗教との二派に分れたり。大乘佛教徒は、是より此の二派を繼承し、一は論理と唯心論とに力を盡し、一は印度の波羅門教を加味し、又多くの印度的習慣を容れて、茲に秘密佛教を開發せしなり。

密教の大
成

密教は龍智に依りて大成せられ、其の弟子金剛智に依りて支那に傳はり、善無畏三藏に依りて、大日經、金剛頂經等の經典に譯出せられ、金剛智の弟子不空に依りて愈々